研究ノート

動詞否定丁寧形で終わる文の 発話の印象評定実験報告 ―日本語母語話者とロシアの学習者の 比較から―

宿利由希子・大内将史

要旨:

本稿は、話し手の人物像によって発話に対する評価が異なる可能性を示すため、日本語母語話者とロシアの学習者の発話音声を用い、若年層母語話者を対象に印象評定を行った。調査では、動詞否定丁寧形「~ません」と「~ないです」で終わる文を、日本語母語話者とロシアの日本語学習者に「丁寧に感じ良く」読み上げてもらい、その音声データの印象を、「丁寧さ」と「感じの良さ」という二つの評価項目に関して日本語母語話者に評価してもらった。動詞否定丁寧形の先行研究では、音声言語において、「~ないです」のほうが「~ません」より「親しみと丁寧さを併せ持つ」と若年層母語話者に評価されることが報告されている。これに対し、本調査では、「~ません」と「~ないです」の発話音声に対する「丁寧さ」「感じの良さ」の評価に有意な差は認められなかった。また、学習者の「~ないです」発話は「丁寧さ」に関して母語話者と同程度に評価される一方、「感じの良さ」に関して母語話者の発話より低く評価されることが明らかになった。これらの結果から、話し手の人物像によって、動詞否定丁寧形で終わる文の発話に対する評価が異なる可能性が示された。

キーワード:~ません、~ないです、丁寧さ、感じの良さ、ポライトネス

動詞否定丁寧形で終わる文の発話の印象評定実験報告(宿利由希子・大内将史) 日本語音声コミュニケーション 6 2018.3.

Abstract:

A purpose of this study is to show a possibility that evaluation of an utterance is influenced by whether the speaker is a Japanese native speaker or a nonnative one. This study conducted an impression assessment research for young Japanese native speakers, using speech data by three Japanese native speakers and three Russian learners of Japanese language. The speech data consists utterances in which six speakers politely read sentences with negative polite verbs "-masu", "-nai desu", trying to make good impressions on hearers. The earlier study reported that "-nai desu" form is mainly used for spoken language, and "-nai desu" utterances make good impressions rather than "-masen" utterances on young Japanese native speakers. However, the result of this study was contrary to this earlier study and revealed following two things; it is not always that "- nai desu" utterances are evaluated more polite than "-masen" utterances; "-nai desu" utterances by Russian learners are evaluated that made worse impression than by Japanese native speakers. These results suggest a possibility that evaluations of utterances are influenced by whether the speaker is a Japanese native speaker or a non-native one.

Keywords: -masen, -nai desu, politeness, good impression

1. はじめに

コミュニケーションは、さまざまな分野から研究されており、特に言語 学や言語教育の分野では、迅速かつ正確に情報を伝え合うだけでなく、相 手に丁寧さを示すことの重要性が知られるようになっている。従来、コミュニケーションにおける丁寧さは、「ポライトネス」理論によって説明 されてきた。ポライトネスとは、「脅威を与える意図がないらしいという 推定を相手に伝えることで、潜在的に攻撃的な当事者間のコミュニケー